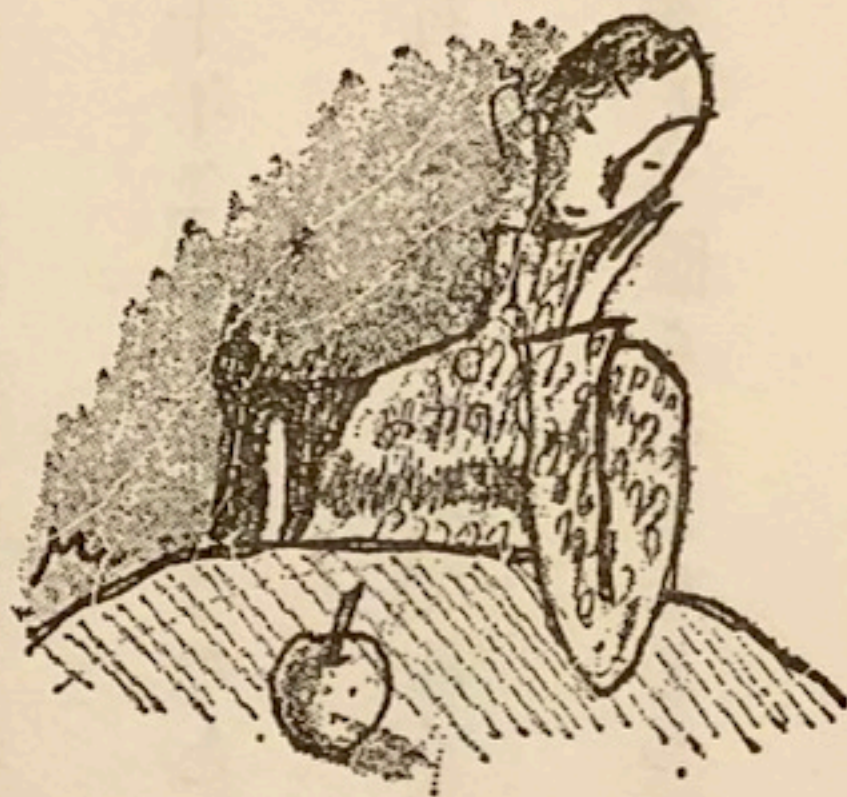


平井元喜さんの音楽の力は国境を越えて

最初に美を捉えるのは感覚であるが、感覚は移ろいやすく、消えやすい。美的感動を自分の心に定着させるには、どんなにもどかしくとも、言葉でそれを表現しなければならぬ。私は多くの音楽家がそれをきわめてユニークな言葉で、深く、楽しく、幸せそうに語るのに接してきた。そして、音楽家が音楽について語る時、それがまた一つの音楽の演奏となって私たちを引きこむのである。

昨年の八月二十四日、品川プリンスホテルの「トパーズ15」にて世界的なピアニスト・平井元喜さんが「世界で平和を奏でる」というテーマで講演をしてくださった時も、わたしたちは、しばし魂を俗世の外へ連れ出され、幸せな解放感に満たされながら、へ音楽の力へのもつ国境を越える素晴らしさを改めて知ったのだった。

平井さんの言葉が私たちに響くのは、ひとえにその純粹さゆえである。それは平井さんのピアノ演奏にも感じられる。試しに『平井元喜ピアノ作品集』に耳を傾けていただきたい。第1曲「Canto Amorooso」の弾き始めを聞くや否や、音そのものの美しさが心を揺すぶるだろう。23曲目のバッハの「Arioso」では至福で涙が流れ、最後の曲「Scenes from a Native Land」では旋律と音とが心を光で満たし、そして、私たちは魂を浄化されてアルバムを聴き収めることになろう。



そんな平井さんの音楽のパワーが今、世界を感動させている。

THE JAPAN TIMES ON SUNDAY (ジャパントイムズ・日曜版) が今年の新年第1号で「Motoki Hirai: Spreading the power of music」(平井元喜: 音楽の力を世界に広める) という特集を組んだ。この欄に登場する日本人は今世界で注目されている時の人なのである。カーネギーホールやロイヤルファミリーの演奏会に招かれるほどの音楽家である平井さんは、同時に、世界九十

ヶ国を旅して音楽を通じた文化交流と平和活動を展開している。記事の結びでも平井さんは「音楽は人々の魂を結びつける信じがたいほどの力をもっています。私の究極の目標は、音楽を分かち合うことを通じて、出来るだけ多くの人がともに幸せになってもらうことです。」と述べている。

その活動は命がけでもある。二〇一二年一月にはイスラエルとパレスチナを空爆下の最中に訪れ、イスラエルのユダヤ人とパレスチナのアラブ人のアーティストに参加してもらってコンサートをしたという。公演終了直後、大きなサイレンが鳴り、お客さんとともに地下のシェルターに避難されたとのこと。

平井さんの活動は音楽に魂の息吹を吹き込みながら、世界を結びつけ続けている。

△新潟経営大学准教授▽